

上川管内農業法人ネットワーク通信 「あぐり Corp.」



2015
初秋号

発行責任者: 上川管内農業法人ネットワーク会長 中原 浩一
発行元: 上川農業改良普及センター

上川管内農業法人ネットワーク

「夏期研修会」が開催されました



8月31日にネットワークの夏期研修会が旭川トヨホテルで開催されました。会にはネットワーク会員のほか、上川管内の農業生産法人の役員や関係機関職員などの参加があり、出席者数は68名となりました。

研修会では、愛別町の同Aの大村正利代表社員より、稲発酵粗飼料の取組みについて講演されました。道内で先駆けて飼料用稲生産に取り組んだ大村氏は「さらなる耕畜連携を進めるためには、



畜産農家と水稲農家の両方ともメリットが持てる飼料づくりと、流通を含めたネットワーク形成が必要」と話されました。

農林水産省経営局の奥原正明局長の講演「農業経営政策の展開方向」では、農地中間管理事業を軌道に乗せるための方策、農協法等の改正案と期待する効果、29年の法制化に向けた実態調査が進められている収入保険など、農水省が現在進めている施策の概要と方向性について説明されました。



夏期研修会の講師、左から大村代表、奥原局長

農林水産省との意見交換会を実施しました



「和郷園」にて、ツアー参加者一同

6月24～26日の日程で農林水産省との意見交換会に行ってきました。参加者は中原会長ほか、ネットワーキ会員10名と事務局です。

農水省では、皆川事務次官を始め、経営局・生産局・食料産業局の各担当職との多岐にわたる意見交換ができました。また、千葉県香取市に赴き、当地で農業を軸に販売や加工など幅広い活動に取り組む農事組合法人「和郷園」を視察しました。

今回の意見交換・視察の詳細については、前項に掲載した夏期研修会において中原会長から報告されました。

会員紹介 愛別町「合同会社Aのー」

(同)Aのー(えーのー)は、平成20年に愛別町愛山地区の水稲農家3戸で設立しました。経営面積53haのうち、水稲が主食用20haと飼料用23haとほとんどを占め、その他にエン麦や大豆などを作付けしています。

「飼料用稲は、水田を維持しながら転作ができるメリットがある」と考え、いち早く飼料用イネ栽培に着目していました。そこで法人設立前から取り組んでいた稲WCS(ホールクロップサイレージ)に加え、平成22年からは飼料用米に取り組むなど、「稲による転作」を進めてきました。特に、飼料用米については、畜産農家と独自に連携を進める中で出てきた要望に応えるべく、もみ米を発酵させた「もみ米サイレージ」に取り組んでいます。町内外の米生産者からの加工受託と合わせ、平成26年産米で約240ト加工生産しています。生産されたサイレージは、



代表社員 大村 正利 氏
 設立 平成20年2月
 資本金 300万円
 事業内容 水稲(主食用・飼料用)・畑作物の生産販売 飼料製造販売

上川管内農業法人ネットワーク 行事のご案内

今回は10月26日に東神楽・愛別での「現地視察研修」を計画しています。開催時期近くに事務局から案内が通知されます。ぜひご参加ください。

編集後記

今年も稲穂が金色に輝く季節となりました。これからの各作物の収穫と出荷においても、安全に作業を行うための基本事項を忘れずに、事故のない豊穰の秋を迎えられますよう願っております。

(K・T)



農協を通じて酪農家や肉牛生産者に販売しています。

「Aのー」の生産する「もみ米サイレージ」は牛の嗜好性やコスト低減に有効であると、供給先の畜産農家から高い評価が得られるようになりました。地域の水田農業を守るとともに、畜産農家のニーズに応えうる飼料用稲生産の確立を目指し、今後も日々行動してまいります。